

地震発生時の児童生徒の安全確保のために —あらゆる事態を想定して—



三木市立豊地小学校の研修の様子

兵庫県教育委員会事務局

教育企画課

1. 研修の目的

在校中の地震発生に備え、あらゆる事態を想定し、教職員が果たすべき役割を教職員間で共通理解する中で、危機管理意識の向上を図り、児童生徒の安全確保の徹底に活かす。

【この研修により生み出される効果】

- 全ての教職員が災害時の役割を共通理解することで、意識向上につながる。
- あらゆる事態を想定した対策をとっていれば、災害時に臨機応変に対応できる。
- マニュアルの内容を再認識し、新たに記載しておくべき点を明らかにできる。
- 担当教職員の不在時の対応に活かせる。
- 学校災害対策本部の各班の連携が大切なことに気付くことができる。

2. 研修の進め方

(1) 《説明》研修の進め方【3分】

(2) 《ステップ1》災害の状況設定をもとに、在校中での地震発生時から児童生徒の下校（引き渡し）までに、考えられる状況を、各自がポストイットに記入【7分】

(例) 避難途中、余震により、廊下のガラス破損

(3) 《ステップ2》班内で、ポストイットに書いた内容について、対策が必要な点を確認【7分】

※「災害対応マニュアルの在校中の対応」のページを模造紙大にしたもの
に対策が必要な点を書き加える。

(班長司会)

(4) 《ステップ3》全体でマニュアルへの追加点等を確認し共有【7分】

※役割として新たに備えておくべき点を確認する。

(副班長発表)

(5) 《ステップ4》各班ごとの役割等を確認【5分】

(班長司会)

(6) 《まとめ》学校防災体制の一層の充実に向けて【1分】

3. 災害の状況設定

【災害の状況】

発生日 令和2年2月13日(木)

発生時間 11:00(3校時目)

地震の震度 震度7

(その他追加する状況を記載)



阪神・淡路大震災時の被害状況



東日本大震災時の被害状況

(参考)

震度7の状況・・・立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。壁、梁、柱などの部材にひび割れ、亀裂がさらに多くなる。大きな地割れが生じることがある。(気象庁ホームページより)

《ステップ1》

災害の状況設定をもとに、在校中での地震発生時から児童生徒の下校(引き渡し)までに、考えられる状況を、各自がポストイットに記入。【7分】

※児童生徒、建物や非構造部材、地域の状況に関することである事態を想定して考える。

(例)

・避難途中に考えられることとして

避難途中、余震により、廊下のガラス破損

・配慮を要する子どもの対応として

車いすを使っている生徒が避難できない

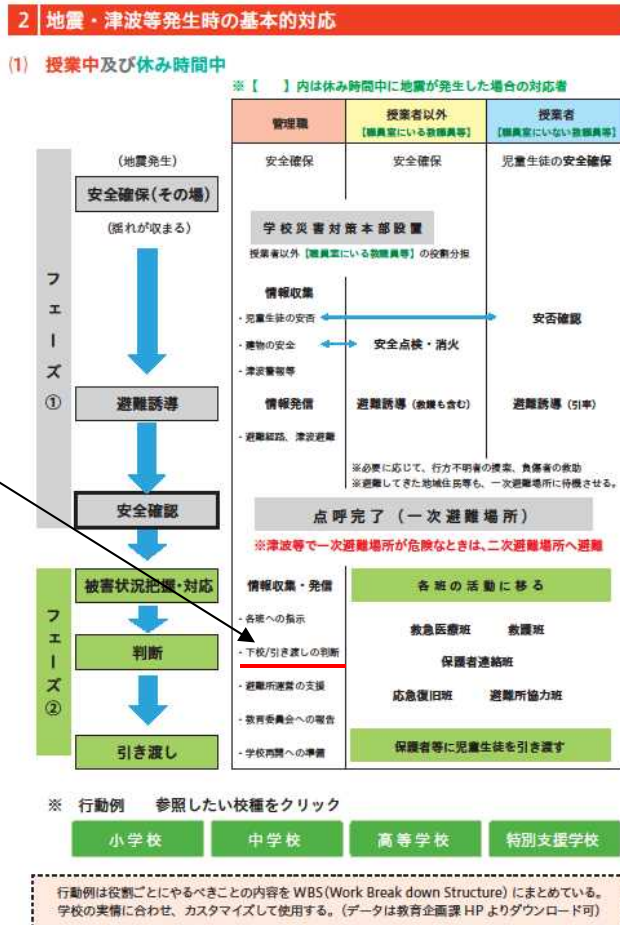
・下校判断時に考えられることとして

公共交通機関がストップし、下校できない

《ステップ2》

班内で、ポストイットに書いた内容について、対策がとられているか確認し、対策が必要な点を書き加える。【7分】

(例)



「余震も考慮し」を加筆

（在校中の地震発生に備えて日頃から実践しておくこと）

授業中の対応（対応の基本）		休み時間、放課後等の対応
安全確保	・近くの窓、壁と反対側に顔を向けて机の下にもぐらせ、机の足をしっかり持たせる。 ・教職員は冷静に的確な指示を与える。 ・安心させるような声をかけ続ける。 ・火を消す。ガスの元栓を閉める。電気器具のコンセントを抜く。 ・避難口を確保する。	・児童生徒に複数の避難場所、避難経路（第二次避難場所含む）を周知しておく。 ・児童生徒の出席や欠席、早退等を把握し、教職員で共有できるようにしておく。 ・特別な支援を要する児童生徒への対応を教職員内で共通理解しておく。
	（第一次避難場所へ避難） ・本部は、危険で通れない箇所を全校に指示し、避難を開始させる。 （状況によっては指示を待たずに避難開始） ・津波による被害が予想される学校の本部では、津波警報等の情報を収集する。 ・転倒、落下の恐れのある物から児童生徒を遠ざける。 ・土壌き等をはかせる。 ・負傷者の応急処置をする。 ・避難経路、避難場所の安全を確認する。 ・近くにいる教職員で協力して、児童生徒を列の前後から守りながら誘導する。 ・廊下を保護しながら避難させる。 ・特別な支援を要する児童生徒の避難は、小グループで手をつながせたり誘導ロープ等を持たせるなどの工夫とともに、できる限り複数の教職員で支援にあたる。 ・重症の場合は、救急隊に連絡し、付き添う。 ・車椅子使用等の児童生徒は、安全な場所に待機させた後、順次避難させる。 （第二次避難場所への避難：津波による被害が予想される学校や第一次避難場所が危険な場合） ・避難経路の状況（余震等による破壊など）について把握する。 ・学校の所在する地域に津波警報が発令された場合には、あらかじめ決めておいた避難場所（鉄筋コンクリートの建物の3層以上や高台等）へ経路を選択し、素早く避難をする。 ・津波到達予想時刻や高さの情報を収集する。 ・収集した情報により、第二次避難場所でも安全を確認し、必要であればさらに安全な場所に避難する。	・教職員がその場になくても、児童生徒自らが安全な行動がとれるよう、平常から揺れが収まったら、安全な場所に移動することを指導しておく。 ・近くにいる児童生徒に指示や声かけをして、不安や恐怖心を和らげるようにする。 ・教職員は自分の居場所や担当学級、学年の児童生徒の安全確保と掌理に努める。 ・避難について全校に指示する。 ・教職員は本部での初動体制の役割分担等により、手分けして、校舎内に残っていたり、負傷している児童生徒がいなかった各教室、体育館、トイレ等を確認する。
避難誘導	・避難場所では、人員確認ができる体制を速やかに敷え、名簿等により人員を確認し本部に報告する。 ・不明者の発見に全力を尽くす。 ・児童生徒に不安や恐怖感を和らげる声かけをする。	
被害状況把握	・施設・設備の被害状況を調査し、被害状況を整理する。 ・危険箇所については立入禁止の標識やロープを張る等の措置をとる。 ・校区の被害状況、交通機関の運行状況を把握する。 ・人的被害、施設・設備の被害状況について、教育委員会に報告する。	
判断	下校させる場合は、通常下校か、集団下校か、教職員引率による下校かなど状況により判断する。 津波警報が発令され、待機させる場合は、保護者が引き取りにきたとしても保護者も避難場所を待機させる。	
引き渡し	・あらかじめ定めた場所（学校や第二次避難場所）で行う。 ・保護者が事前に届け出ている者に、引き渡しカードにより確認し引き渡す。 ・保護者に引き渡すまでは、児童生徒の保護を継続し、児童生徒の心のケアに配慮する。	

公共交通機関等の運行状況を考慮することを加筆

《ステップ3》

全体でマニュアルへの追加点等を確認し共有【7分】

- ・各班1分程度でマニュアルへの追加点等を発表。
- ・各自の災害対応マニュアルに加筆する。

《ステップ4》

各班ごとの役割等を確認【5分】

※班ごとに役割を確認
加筆点を班内で共有

(児童生徒及び教職員の安
否確認、警報の発表状況、
校区の被害状況、公共交通
機関の運行状況等)

業務	内 容	主な必要物
学校災害 対策本部	- 情報収集 - 他班との連絡調整 - すべての児童生徒や教職員に説明 - 市町の災害対策本部、教育委員会、PTA 等に連絡 - 状況を判断し、必要な物資を要求 - 報道関係等、外部との連絡の承認 - 記録日誌、教育委員会への報告書作成 - 応急対策の決定 - 校内放送等による連絡・指示 - 非常持ち出し品を搬出	- 緊急プラン - 学校の敷地図 - ラジオ - ハンドマイク - 懐中電灯 - 緊急活動の日誌 - トランシーバー - 携帯電話
安否確認・ 避難誘導	- 揺れがおさまった直後に負傷の程度をできるかぎりの確に判断する - 指定避難経路や別の経路を使って、避難させる - 行方不明の児童生徒、教職員を本部に報告する - 児童生徒の不安の緩和 - 医療援助を求めるかどうかの決定	- クラスの出席簿(名簿) - 拡声器(メガホン) - ホイッスル - 懐中電灯
安全点検・ 消火	- 被害状況を把握(ライフライン) - 初期消火 - 施設等の構造的被害程度を調査し、本部に報告 - 避難及び救助活動の支援 - 安全点検 - 近隣の危険箇所の巡視	- 消火器 - 軍手 - 道具セット - 安全点検表 - 革手袋 - ヘルメット
救急医療	- 応急手当 - 負傷や応急手当の記録をとる - 応急手当用備品の確認 - 医療の援助が必要かどうかを決める - 関係医療機関への搬送、連絡	- 救急箱 - 健康カード - 担架 - 水 - 毛布 - A E D
救護	- 職員を2人1組からなる数チームに分け、それぞれ特定の区域の負傷者の救出、救命にあたる - 常に複数で行動する - 各教室、体育館、トイレ等のチェック - 負傷者や危険箇所等の通報のチェック	- ヘルメット - 丈夫な靴 - のこぎり - 革手袋・軍手 - 防塵マスク - トランシーバー - パール・斧 - 毛布・担架

業務	内 容	主な必要物
保護者 連絡	- 電話連絡網、一斉メール送信、地域防災無線等での連絡 - 引き渡し場所の指定 - 保護者や後見人に、児童生徒を引き渡す作業の開始 - 身元確認	- 児童生徒引き渡しカード - 名簿 - 集合場所のクラス配置図
応急復旧	- 被害状況を把握 - 応急復旧に必要な機材等の調達、管理 - 危険箇所の処理 - 授業教室を確保 - 明白な構造的被害や他の危険がある場所を立入禁止にする - 避難場所の安全確認	- ヘルメット - 被害調査票 - 校内図 - ロープ - 標識
避難所 支援	- 学校の場所がすぐわかる所に、班員を派遣し、保護者、消防隊、救助隊、警察、医療職員に適切な場所を指示 - 避難者の受付をし、名簿の作成や避難生活の状況を把握 - ボランティアを希望する人を受け入れる準備 - トイレ設備をつくる - ゴミが衛生的に適切に処理されているかを確認 - 必要に応じて、配布するための食料、水、配給物を集める - 避難所の統合・廃止の計画 - 関係機関への報告連絡	- マスターキー - ラジオ - 同仕切り用ダンボール - 校内配置図 - 保護者への文書による指示 - ボランティアの仕事の内訳 - トイレの備品 - 職員の表示 - ビニール袋 - ロープ・テープ

※上記については、あくまで例であり、学校規模や状況によっては必要な業務内容の優先順位を決めて実施する。

避難に配慮を要する生
徒の避難補助

《おわりに》

日頃から危機管理意識を高め、
子どもたちの安全確保に努めましょう。

【基礎編】地震発生時の児童生徒の安全確保のために —あらゆる事態を想定して—

1. 研修のねらい

この研修パッケージは、在校中に地震発生した場合の被害等について、あらゆる事態を想定し、教職員が果たすべき役割を教職員間で共通理解する中で、危機管理意識の向上を図り、児童生徒の安全確保に活かすためのものです。

【この研修により生み出される効果】

- 全ての教職員が災害時の役割を共通理解することで、日頃の意識向上につながる。
- あらゆる事態を想定した対策をとっていれば、災害時に臨機応変に対応できる。
- マニュアルの内容を再認識し、新たに記載しておくべき点を明らかにできる。
- 担当教職員の不在時の対応に活かせる。
- 学校災害対策本部の各班の連携が大切なことに気付くことができる。

2. 進行上の留意点

- (1) 研修資料に沿って進行する。
- (2) 災害の状況設定では、発生日、曜日、発生時間について季節等を考慮し、各学校で設定する。
休み時間の設定も可です。
(追加する状況を記載) 欄には、校区の災害特性を追加記載してください。
その際、例えば、南海トラフの巨大地震による津波が予想される地域では以下のように設定する。
例「校区は、市防災部局が示す津波浸水域に入っているが、学校の所在地は津波浸水域にはなっていない。学校のある神戸市は南海トラフの巨大地震発生時には、90分で1mの津波が到達し、最大で4mの津波が到達することが予想されている」
- (3) 研修班は、学校災害対策本部の班編制とし、人数が少ない場合、複数班を1グループとして進めてもよい。ただし、意見を活発に出させるため、1班の人数が10名を超えないようにする。
- (4) 研修形態は、班ごとに机を囲んだ研修形態とし、模造紙を広げられるように設定する。
- (5) 各自のポストイットへの記入は、災害対応マニュアルに頼らずに、イメージ湧かせて考えさせる。
- (6) 班内での活発な意見交換がなされるよう、机間巡視により適宜助言する。
- (7) 時間は概ね30分で構成されているが、時間の確保ができれば、班での役割を確認する時間を増やすなど研修の充実を図る。
- (8) 研修終了後は、災害時の各班の対応に使う必要物の確認等に活かすなど工夫するとともに、休日等の対応についても各校で内容を改編し研修を図るなど、災害時の対応の充実を図る。

3. 事前の準備物

- ☐ 災害対応マニュアル（各自準備）
- ☐ 幅25mmのポストイット（1人20枚×人数分）
- ☐ 災害対応マニュアル記載の学校災害対策本部各班の役割及び在校中の地震発生時の対応（班数分）
※A3版～模造紙大に拡大した用紙
- ☐ 実物投影機1台（A3版にコピーして活用した際に使用）
- ☐ パソコン
- ☐ プロジェクタ
- ☐ スクリーン
- ☐ マジック

スライド（時間の目安）	進行原稿等
<u>スライド 1</u> （0:00:00～0:00:20） 防災校内研修資料 地震発生時の児童生徒の安全確保のために —あらゆる事態を想定して—  兵庫県教育委員会事務局 教育企画課 三木市立豊地小学校の研修の様子	これから、防災校内研修会を始めます。 今日は、地震発生時の児童生徒の安全確保のために—あらゆる事態を想定して—と題して、研修を行います。
<u>スライド 2</u> （0:00:20～0:01:00） 1. 研修の目的 在校中の地震発生に備え、あらゆる事態を想定し、教職員が果たすべき役割を教職員間で共通理解する中で、危機管理意識の向上を図り、児童生徒の安全確保の徹底に活かす。 【この研修により生み出される効果】 ○全ての教職員が災害時の役割を共通理解することで、意識向上につながる。 ○あらゆる事態を想定した対策をとっていれば、災害時に臨機応変に対応できる。 ○マニュアルの内容を再認識し、新たに記載しておくべき点を明らかにできる。 ○担当教職員の不在時の対応が活かせる。 ○学校災害対策本部の各班の連携が大切なことに気付くことができる。 2	研修の目的は、昨今、南海トラフ巨大地震や山崎断層地震等、兵庫県内に被害を与える地震の発生が危惧されており、学校は、災害が起きたとき児童生徒等の安全を確保することが何より求められています。そのため、在校中の地震発生に備え、あらゆる事態を想定し、我々教職員が果たすべき役割を教職員間で共通理解する中で、危機管理意識の向上を図り、子どもたちの安全確保の徹底に活かすためのものです。 この研修により生み出される効果として、 ○全ての教職員が災害時の役割を共通理解することで、日頃の意識向上につながる。 ○あらゆる事態を想定した対策をとっていれば、災害時に臨機応変に対応できる。 ○マニュアルの内容を再認識し、新たに記載しておくべき点を明らかにできる。 等が挙げられます。
<u>スライド 3</u> （0:01:00～0:02:00） 2. 研修の進め方 【説明】研修の進め方【3分】 【ステップ1】災害の状況設定をもとに、在校中の地震発生時から児童生徒の下校（引き渡し）までに要する時間で、児童生徒に関すること、建物や非構造部材に関すること、地域の状況に関することで考えられる状況を、各自がポストイットに記入します。時間は7分とります。 〈例〉 避難途中、余震により、廊下のガラス破損 【ステップ2】班内で、ポストイットに書いた内容について、対策が必要な点を確認【7分】 ※「災害対応マニュアルの在校中の対応」のページを模造紙大にしたものに対策が必要な点を書き加える。 （班長司会） 【ステップ3】全体でマニュアルへの追加点等を確認し共有【7分】 ※役割として新たに備えておくべき点を確認する。 （副班長発表） 【ステップ4】各班ごとの役割等を確認【5分】 （班長司会） 【まとめ】学校防災体制の一層の充実に向け【1分】 3	研修の進め方として、 《ステップ1》この後に示す災害の状況設定をもとに、在校中での地震発生時から児童生徒の下校（引き渡し）までに要する時間で、児童生徒に関すること、建物や非構造部材に関すること、地域の状況に関することで考えられる状況を、各自がポストイットに記入します。時間は7分とります。 《ステップ2》 班内で、ポストイットに書いた内容について、対策がとられているか災害対応マニュアルの確認をします。模造紙大のものに必要な点を記入します。班長が進めてください。時間は7分とります。 《ステップ3》全体でマニュアルへの追加点等を確認し共有します。各班から追加点等を1分程度で発表していただきます。副班長が発表してください。 《ステップ4》各班ごとの役割等の確認をマニュアルをもとに改めて確認していただきます。班長が進めてください。時間は5分です。 このような流れで研修を進めます。

スライド4 (0:02:00～0:03:00)

3. 災害の状況設定

【災害の状況】
発生日 令和2年2月13日(木)
発生時間 11:00(3校時目)
地震の震度 震度7 (その他追加する状況を記載)



阪神・淡路大震災時の被害状況



東日本大震災時の被害状況

【参考】
震度7の状況・・・立っていることができます、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。壁、床、柱などの建材にひび割れ、亀裂がさらに多くなる。大きな地震が主になる。(気象庁ホームページより)

まず、災害の状況ですが、2月13日(木)の冬の季節と設定しています。時間は、3校時目の11:00、学校のある地域に震度7の地震が発生したという想定です。

震度7を記録した阪神・淡路大震災では、校舎の壁や窓ガラスの破損、東日本大震災では、学校昇降口の下駄箱が倒れるなどの被害も出ています。ちなみに、震度7は、立っていることができず、はわないと動くことができない、固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。という状況が予想されます。

※ 発生日、曜日、発生時間については、季節等を考慮し、各学校で設定してください。 休み時間の設定も可です。

※ (追加する状況を記載) 欄には、校区の災害特性を追加して記載して結構です。その際、例えば、南海トラフの巨大地震による津波が予想される地域では以下のように設定する。

(例)「校区は、市防災部局が示す津波浸水域に入っているが、学校の所在地は津波浸水域にはなっていない。学校のある神戸市は南海トラフ巨大地震発生時には、90分で1mの津波が到達し、最大で4mの津波が到達することが予想されている」

スライド5 (0:03:00～0:10:00)

《ステップ1》

災害の状況設定をもとに、在校中での地震発生時から児童生徒の下校(引き渡し)までに、考えられる状況を、各自がポストイットに記入。【7分】

※児童生徒、建物や非構造部材、地域の状況に関することであらゆる事態を想定して考える。

(例)

・避難途中に考えられることとして

避難途中、余震により、廊下のガラス破損

・配慮を要する子どもの対応として

車いすを使っている生徒が避難できない

・下校判断時に考えられることとして

公共交通機関がストップし、下校できない

6

それでは、研修に入ります。

災害の状況設定をもとに、在校中での地震発生時から児童生徒の下校(引き渡し)までに要する時間で考えられる状況を、各自がポストイットに記入します。

こんな状況も考えられるのではないかという視点から、例えば、避難途中、余震により廊下のガラスが破損する、あるいは、車いすを使っている生徒が避難できないなど、あらゆる事態を想定し、ポストイットに記入してください。マニュアルに頼らず、考えてください。

ポストイットが足りなければ申し出てください。

時間は7分とします。

(7分後)

それでは、時間になりましたので、次に移ります。

スライド6 (0:10:00～0:17:00)

《ステップ2》

班内で、ポストイットに書いた内容について、対策がとられているか確認し、対策が必要な点を書き加える。【7分】

(例)



6

皆さんにポストイットに書いた内容について、災害対応マニュアルの中で対策がとられているか、班内で確認し、対策が必要な点を書き加えます。

(A3版から模造紙大に拡大した用紙)の災害対応マニュアル記載の在校中の地震発生への対応に、対策が必要な点をマジックで書き加えてください。

各班の班長さんが中心となって進めてください。

時間は、7分とします。

(7分後)

それでは、時間になりましたので、発表に移ります。

スライド7 (0:17:00~0:24:00)

《ステップ3》

全体でマニュアルへの追加点等を確認し共有【7分】

- ・各班1分程度でマニュアルへの追加点等を発表。
- ・各自の災害対応マニュアルに加筆する。

7

新たに必要な対策として追加した内容について、各班1分程度で発表していただきます。

その際、皆さんは、各自お持ちのマニュアルにメモ願います。
 それでは、本部から願います。
 (順に指名)

ありがとうございました。

スライド 8 (0:24:00~0:29:00)

《ステップ4》

各班ごとの役割等を確認【5分】

※班ごとに役割を確認
加筆点を班内で共有

(児童生徒及び教職員の安全確認、警報の発表状況、校区の被害状況、公共交通機関の運行状況等)

[illegible]

酸糖に配慮を要する生
体の酸糖補助

8

それでは、各班の役割を班ごとに確認していただきます。

(A3版から模造紙大に拡大した用紙)の学校災害対策本部の各班の業務内容に、各班から出された必要な対応について確認いただき、必要があれば加筆してください。

なお、皆さんは、各自のマニュアルにも記載しておいてください。

また、各班の班長さんが中心となって進めてください。
時間は5分です。

(5 分後)

それでは、時間になりました。

スライド 9 (0:29:00~0:30:00)

《おわりに》

日頃から危機管理意識を高め、
子どもたちの安全確保に努めましょう。

9

それでは、本日、短時間ですが災害時の対応について研修をしていただきました。

最後に、校長先生から研修の総括をいただきます。

(総括)

ありがとうございました。

以上で、研修を終わります。